

UNITE FOR GOOD

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



2025
9



2025-2026 年度
ガバナー 瀬戸隆海

UNITE FOR GOOD

よいことのために手を取りあおう

目次

9月は 基本的教育と識字率向上月間・ロータリーの友月間です

ガバナー メッセージ 3	公式訪問紹介 14
9月～特別月間によせて～ 「ロータリーの友月間」 5	ガバナー時代回顧録 15
地区総括委員長あいさつ 職業奉仕総括委員長 7	国際大会帰国報告 16
研究会報告 国際奉仕プロジェクトセミナー 社会奉仕プロジェクトセミナー 8	2028-2029年度地区ガバナー候補者 推薦のお願い 18
我がクラブ紹介 那珂湊RC 常陸太田RC 大子RC 大洗RC 勝田RC 東海那珂RC ひたちなかRC 10	新入会員・訃報 19
	地区予定表・編集後記 20

題字・表紙写真

9月 みやび絵歳時記

たおやか 秋のはざまに 咲くほほえみ

作者 澤田 憲一

秋の七草の中に桔梗があります。キキョウの花言葉は「永遠の愛」「変わらぬ愛」「誠実」「気品」などですが、特に青や紫の花は「永遠の愛」「変わらぬ愛」「誠実」と言われています。嬾やかさの中に微笑みを届け、誠実にロータリー精神を推し進めましょう。(ガバナー 瀬戸隆海)



ガバナーメッセージ

国際ロータリー第2820地区
2025-2026年度ガバナー
瀬戸 隆海（水海道RC）

今年の猛暑も、社会的に大変影響がありました。もちろん年明けから騒がれておりました米不足も、実りの秋を迎え解消されていくのでしょうか。まだまだ暑い日が続きますが、どうぞ皆様ご自愛ください。

さて今月の月間はR Iで示す「基本的教育と識字率向上月間」の他に、『ロータリーの友月間』でもあります。

私が水海道ロータリークラブに入会したころ、ロータリアンの三大義務として、

- ① 例会の出席
- ② 会費の納入
- ③ ロータリーの友の購読

と言われました。

義務と言われると、何か抵抗的なものが働いて、つい反抗的になってしまいます。

「義務」と言うよりは、「意義」と言った方が、とても有用的なのではないかと思いがいかげんでしょうか。

その三大義務の中に「ロータリーの友の購読」があります。読まれていない雑誌のベストセラーとまで言われている「ロータリーの友」。なぜ三大義務の中に「ロータリーの友の購読」があるのでしょうか。

確かに、私自身も入会当時はロータリーの友の頁をただ漫然とめくっているだけでした。冊子の縦組と横組の間のページにはたくさんの広告がありました。世界大会の半年前になると、旅行社のツアーの事や、銅像作成の広告等、ロータリーの人こんな事に興味あるのだなと感じました。

「ロータリーの友の購読」の意義は、ロータリーとしての情報が読み取れることではないでしょうか。R I会長の動向や、月間の様々なプログラムについて、また様々なクラブの事、実に情報の宝の山です。

クラブの費用なのであまり感じないかと思いますが、それぞれの会員が、一人一冊あたり 250 円（税別）を支払っている雑誌なのです。ぜひ「義務」を「意義」に意識を変えて、読んでいただきたいと思います。

また最近、ロータリーの友の紙面が変わってまいりました。それは編集長が変わったのをきっかけに、紙面の編集の仕方も変わるものだと思います。

その編集長に関して。ある年のロータリー世界大会へ、いつもの仲間たちと共に、ロータリーの友の編集長とスタッフの方と同行させていただく機会がありました。

彼らは世界大会のスケジュールを見ながら、R I の役員の動向をチェックし、プログラムの内容と記事の内容と照らし合わせながら、緻密に検索し、どのタイミングで取材したら良いのかと、早朝から動き回っている姿を見て、私は大変感動したのを覚えています。

こういった編集事情を見ていると、ロータリーの友の購読を、おろそかに出来ないと思うばかりであります。

このように編集の方々がご苦勞をされて作り上げている、ロータリー情報のプラットフォームであるロータリーの友を、是非とも活用していただきたいとお願いする次第であります。

また会員向け情報サイト「My ROTARY」も同じであります。こちらもロータリーの友と同様に、ロータリーの全ての情報が詰まっています。

しかし、「My ROTARY」の登録はしましたが、閲覧はしていないというのが現状ではないでしょうか。

会員のスキルアップ、そしてクラブのアップグレードにぜひ活用していただきたいと思います。

さて、公式訪問もいよいよ残り三分の二ほどになってまいりました。ガバナーとして公式訪問はとても重要な責務であります。反対に私自身が様々なクラブを体験できる楽しい時間でもあります。どのクラブに赴いても、クラブ独自の体験に触れることができます。

その体験こそが、私の経験として活かされ、そして各クラブへ訪問した際、ロータリーの友と同様に、私からの情報発信とさせていただきたいと考えております。今後訪問を予定されているクラブの皆様には、そのような「意義」を感じながら迎えていただけると幸いです。



9月～特別月間によせて～ 「ロータリーの友月間」

国際ロータリー第2820地区
ロータリーの友地区代表委員

北村 英明（水海道 RC）

毎年9月は「ロータリーの友月間」として、私たちロータリアンが会員誌『ロータリーの友』の価値を再認識し、その活用について考える大切なひと月です。この機会に、あらためて皆さまに『ロータリーの友』の魅力をお伝えし、活用の一助となることを願って、筆を執らせていただきます。

『ロータリーの友』は、日本全国のロータリアンを結ぶ情報と想いの架け橋です。地域を越えて他クラブの活動や考え方に触れることができ、私たちの奉仕の幅や視野を広げるきっかけとなります。誌面に紹介されている一つ一つの活動報告やインタビューは、そこに込められた情熱や工夫が感じられ、読む者に勇気や刺激を与えてくれます。

（社）ロータリーの友事務所 代表理事・高野孫左エ衛門様が提唱されている「ロータリーについてもっと話し合おう」というテーマは、今の時代に非常に重要なメッセージです。ロータリーの本質とは何か、私たちは何のために集い、行動しているのか——それらを仲間と率直に語り合うことは、ロータリー活動をより深く、より実りあるものにしていくための土台となります。そして『ロータリーの友』は、その対話のきっかけを与えてくれる貴重なツールであると考えます。

誌面には、奉仕活動の実例だけでなく、ロータリーの理念や歴史、世界のロータリアンの声・活動も掲載されています。それらを通じて得た知識や気づきを、クラブの例会や懇親の場で共有することは、「ロータリーについて話し合う」文化を育て、クラブの結束力や方向性を再確認することにもつながるはずです。

近年では、地区内のクラブでも『ロータリーの友』の記事を活用した例会のディスカッションや、ローターアクターの勉強会など、誌面を積極的に取り入れた取り組みが見受けられます。特に新入会員にとっては、『ロータリーの友』を通じてロータリーの多様性や活動の奥深さを知ること、理解促進と身近さを感じる大きな助けとなるはずです。

その一方で、地区代表委員として感じているのは、誌面に登場するクラブの顔ぶれが、まだ限られているという現実です。ぜひ2820地区の皆さまにも、日頃の奉仕活動やユニークなクラブの取り組み、会員の声などを積極的に『ロータリーの友』へご投稿いただきたいと願っています。地区内での多様な実践例が誌面に紹介されることは、他クラブへの刺激や学びとなり、地区全体の活性化にもつながります。投稿は広報やクラブの記録にもなり、クラブをPRする絶好の機会にもなります。どうか気負わず、皆さまの生の声をお寄せください。

さらに、『ロータリーの友』は現在、紙媒体だけでなくスマートフォンやパソコンからも閲覧が可能となっており、過去のアーカイブスも含めて自由に読むことができます。外出先や移動中にも手軽に読めるようになり、より多くの方にとって身近で利用しやすい情報源へと進化しています。ぜひこうしたデジタル版もご活用いただき、いつでもどこでもロータリーに触れる習慣をお持ちいただければと思います。

とはいえ、紙媒体として毎月届く『ロータリーの友』には、スマートフォンやパソコンとは異なる読み方の魅力があります。ページをめくりながら、写真や文章にじっくりと向き合うことで、そこに込められた思いや背景を深く感じ取ることができます。デジタルが主流となる時代だからこそ、本で読む時間を大切にすることは、ロータリアンとしての感性を育てる一助になるのではないのでしょうか。

今後、私たち地区ロータリーの友委員会としても、クラブ間での誌面活用事例の共有や、『ロータリーの友』を活用した研修機会の提供など、会員の皆さまにとってより実用的で身近な存在となるよう努めてまいります。

なお、地区ロータリーの友代表委員として、クラブ内での誌面活用の工夫や投稿方法、社会へのPR方法などについてのご相談も随時承っております。ちょっとした疑問やアイデアの共有など、どんなことでも結構ですので、どうぞお気軽にお声かけください。皆さまと一緒に、第2820地区の盛り上げ・PRに活かしていけるよう努めてまいります。

ぜひこの9月を、ロータリーの原点と未来について語り合う月間とし、その対話の起点として『ロータリーの友』をご活用いただければ幸いです。皆さま一人ひとりの関心と熟読が、誌面を、クラブを、そしてロータリーそのものをより豊かに育てていくと確信しています。

この場をお借りして御紹介しますと、当地区におけるロータリーの友地区代表者として、土浦南ロータリクラブのバスター片岡信彦様が2012年から2年間、ロータリーの友委員長を務められ、現在も友委員会相談役としてご活躍・ご尽力されていることを加筆させていただきます。永年のご活躍に敬意を表します。

結びに、日頃より『ロータリーの友』の購読と活用にご理解とご協力を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。これからも、皆さまのご意見やお声を大切にしながら、よりよい誌面づくりとその普及に尽力してまいります。どうぞ引き続きの熟読とご支援をよろしくお願い申し上げます。



委員会の方針と展望 ～職業奉仕委員会

国際ロータリー第 2820 地区
2025-2026 年度 職業奉仕総括委員長

安 圭一（水戸 RC）

「ロータリークラブの基本理念である。」といわれる職業奉仕は、ロータリークラブの他の奉仕部門とは、だいぶ趣を異にしている印象を受けます。そのため、職業奉仕というものについて十分に理解しているという自信を持たないロータリアンが、意外と多いのが実情ではないでしょうか。私自身、職業奉仕というものについて、しっかりと理解できていたという自信はありませんでしたので、この役目をお引き受けする際に、職業奉仕について、ロータリークラブの歴史に沿って調べてみました。

ロータリークラブを設立するに至った当時の社会状況は、経済取引上の倫理観が低迷していて、信頼できる取引先を探す必要性に迫られていたようです。信頼できる仲間の集まりとしてのロータリークラブを設立する、ロータリークラブのメンバーであれば信用できる、そんなクラブになろうという趣旨に賛同する人々の集まりで始まったのがロータリークラブであったということが理解できました。

そうだとすると、ロータリークラブの設立当初から掲げている基本理念そのものが、職業上の倫理観の向上を目指すものであり、その実践を促す仕組みが職業奉仕であるのは、むしろ当然のことです。

社会状況の変化に伴い、ロータリークラブのあり方も変化をしてきました。それに伴い、ロータリークラブに何を求めるか？という点において、ロータリアン自身も変化をし、多様化してきています。

だからこそ、もう一度ロータリークラブの原点を見直し、ロータリークラブそのものの存在意義を確認することが大切なように思います。

今年度は、「ロータリークラブの基本理念としての職業奉仕」という原点を常に意識しながら、ロータリアン同士が気軽に職業奉仕について語り合える環境を作れることを目標にしたいと考えています。

どうぞ、よろしく願いいたします。



国際奉仕プロジェクトセミナー報告（7月19日開催）

国際ロータリー第2820地区
国際奉仕委員会 総括委員長

村上 義孝（つくば学園RC）

2025-26「この指とまれ」プレゼンテーションを開催

去る7月19日、奉仕プロジェクト研究会の国際奉仕分科会において、当地区独自のWCS事業である「この指とまれ」事業のプレゼンテーションが開催されました。今年度は、新たに提唱クラブとなったクラブも含め、地区内から全7事業（11クラブ/対象国6ヶ国）の応募があり、各クラブの代表者から熱意あふれるプレゼンテーションが行われました。今回応募があった7事業は以下の通りです。（受付順/提唱クラブ名、事業名、対象国）

- ①日立・下館RC「ネパールの貧しい子ども達への就学支援」（ネパール）
- ②つくば学園RC「インドネシアの学生向け学用品支援プロジェクト」（インドネシア）
- ③しもだて紫水RC「フィリピンの貧しい子ども達に文具品や生活必需品の配布を行う支援」（フィリピン）
- ④古河・古河中央・古河東RC「タイへの希望の架け橋プロジェクト」（タイ）
- ⑤水戸南RC「中古車いす贈呈事業」（タイ）
- ⑥つくばサンライズ・土浦RC「3Dプリンターを活用した視覚障害教育支援事業」（マレーシア）
- ⑦境RC「モンゴルの子供たちへ学用品支援」（モンゴル）

今後は、地区内各クラブへの協賛金募集（9月30日（火）締切）を経て、各クラブへ協賛金の交付が行われます。提唱クラブの魅力あるプロジェクトに多数の賛助クラブが集まり、内容の濃いグローバル事業が実施される事を期待しております。

【「この指とまれ」とは？】

「この指とまれ」事業とは、国際ロータリー第2820地区独自に実施している世界社会奉仕（WCS）プログラムです。趣旨としては、「一つのクラブでは資金的に困難な時、もう少し大きな事業をしたいとき、でも、ロータリー財団のグローバルグラントを使う程の事業ではないとき」事業の提唱クラブとなりプレゼンテーションを行い、地区内のクラブに賛助を募り、「賛助クラブがお金を出し合って事業を支援する」というプログラムです。

【参考】

2022-23年度 4事業（日立・下館共同、しもだて紫水、結城、地区国際奉仕）

2023-24年度 7事業（日立・下館共同、古河中央、古河東、しもだて紫水、結城、つくばサンライズ、地区国際奉仕）

2024-25年度 3事業（日立・下館共同、しもだて紫水、地区国際奉仕）



（写真説明）各クラブの国際奉仕担当のロータリアンが一堂に会し、熱心に提唱クラブのプレゼンテーションに聞き入っていました



社会奉仕プロジェクトセミナー報告（7月19日開催）

国際ロータリー第2820地区
社会奉仕委員会 総括委員長

黒木 雅宏（水戸西RC）

ホテルテラスザガーデン水戸に於きまして、奉仕プロジェクト研究会が開催されました。

午前の部では「奉仕プロジェクトと職業奉仕」の演題にて新井和雄 PDG (R1 RRFC) よりご講演をいただきました。ロータリーの基本理念と職業奉仕についてご説明があり様々な取り組みがディスカッションされ、グローバルガバナンスと職業奉仕という観点から導き出される市民の意識改革と行動変容から環境保全のリーディングカンパニーとして公益に資する事業が自社の持続可能な発展につながるものであるとご説明いただきました。そのなかでも自分が研究してきた知識を農業経営者に生かしてもらいたいとのインスピレーションを受け職業奉仕に目覚め、実際に指導し農業経営に成功した方がロータリークラブに入会されたとの素晴らしい功績もご紹介いただきました。

社会奉仕と職業奉仕（環境保全プロジェクトの事例）のディスカッションにおいては職業奉仕についてロータリアン各自の職業意識・持続可能な行動目標等、活発なる意見交換があり職業奉仕の再認識をすることができました。

国際奉仕と職業奉仕（ネパールの農村開発の事例）ではロータリークラブ定款第6条五大奉仕部門の2、職業奉仕についての説明があり、こちらにおきましてはグローバル補助金を活用しネパールにおいて、社会開発の専門家であるローターアクトが住民の要望である灌漑設備を建設し飲料水が確保でき、女性が教育を受けることができるようになりました。そして灌漑利用組合を設立し組合長がロータリアンになったとのことです。こちらの事例に対してインパクトを実現させるための「積み木」に組み立てて、投入リソース・結果・成果・インパクトを明確にご説明いただきました。

午後の部におきましては、職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕のグループごとに集合し分科会を開催し、こちらはラーニング方式にてグループごとにファシリテーターを中心として活発な意見交換を行いました。職業奉仕ではグループごとに模造紙に意見を書き入れて意識を高め、社会奉仕では気づいた点をクラブに持ち帰ってもらうために各自にメモをとってもらい、この成果を各グループごとに分科会発表をしていただきました。また国際奉仕では「この指とまれ」について7クラブが発表し、疑似事業計画作りを行いプランニングしていきました。「この指とまれ」事業は地区独自事業であり「賛助クラブがお金を出し合って事業を支援する」というプログラムであることをご理解いただき、各クラブにプレゼンテーションをしてもらい意見交換をし事業プランを練り上げて実現の可能性について話し合い、他クラブの考え方を知るうえでも大きな成果をあげることができました。

『He Profits Most Who Serves Best 最もよく奉仕する者、最も多く報いられる』

ロータリアンの皆様、奉仕活動に邁進していきましょう。

我がクラブ紹介

第2分区編

那珂湊ロータリークラブ

会長 吾妻 蒼遥
幹事 川崎 誠

踏み出そう 70年とその一歩 ～那珂湊ロータリークラブの今～

光圀の別邸、資賓閣（いんひんかく）の復元が叶わぬ…みなと公園日和山（ひよりやま）（標高28m）からの夕陽（せきよう）は、涸沼川と那珂川とが合流する那珂湊河口を橙色（だいだいいろ）に染め、無窮の美を湛（た）えております。かつて水戸藩の台所と呼ばれた旧那珂湊の歴史は古く、多くの文人墨客等が足を運び、随所にその足跡を見ることが出来ます。そして吾がクラブは創立70周年という節目を迎え、新たなる一歩を踏み出そうとして、もがいております。かつては60名近い会員数を有し、那珂湊経済の原動力となっておりましたが、現在は、様々な歴史の負の要因を背負い、僅か16名の会員数となりました。とは言え、会員一人一人の思いは数に反比例して益々熱くなっております。特に吾がクラブは『青少年のこころ育成事業』に多くの時間を割いて取り組んで参りました。その筆頭、地元の小学生と共にみなと公園の一角で、草を抜き、植栽していく『ハマギクの植栽活動』は実に20年の時を越え、定着しております。『逆境に立ち向かう』という花言葉が子供達の間で話題となり、励みとなっている、との声も聞いております。又昨年は地元海洋高校90周年記念事業に財団補助事業として参画、『四條眞流庖刀式』を県の代表であります大森憲哲氏に催行していただき、筑前琵琶の弾き語り『平家物語』を打越美和子氏に演奏して頂きました。そして今年度はいよいよ本番。事業内容は、かねてより、実現に向けて模索しておりました『能楽』を佐倉中央ロータリークラブ所属で無形文化財能楽師・橋岡久太郎先生に御無理を申し上げ、演目『葵上』を催行して頂く運びとなりました。當（まさ）に至上の喜びでございます。地域の子供達にホンモノの能舞台を見せることで、何か大きな感動をこころに刻んでもらいたい、そう願っているところでございます。「感動に打たれてこそ人は尋常ならざることを深く感ずるのである…」ゲーテでございます。

今年度は能楽に関連した外部卓話もいくつか予定いたしまして、クラブ会員以外の方も自由に聴くことが出来るよう例会の解放も引き続き行って参ります。学びある楽しいロータリーをめざしクラブの魅力地域の皆様にお示しすることが、会員増強に繋がるものと信じております。ロータリアン新米の私でございます。どうぞ皆様のご指導ご鞭撻のほどを重ねてお願い申し上げます。クラブの紹介とさせていただきます。ありがとうございました。

常陸太田ロータリークラブ

会長 成井小太郎
幹事 小祝 年織

常陸太田ロータリークラブは1960年1月13日、水戸ロータリークラブをスポンサークラブとして創立し66年目を迎えました。1966年には大子ロータリークラブのスポンサークラブになりました。友好ロータリークラブとして第2540地区(秋田県)大館ロータリークラブがあります。常陸太田は佐竹氏の発祥の地であり秋田移封によるご縁で大館ロータリークラブとは友好関係を続けており、3年毎に相互交流を深めています。

常陸太田市には西山荘があります。水戸黄門こと水戸光圀の隠居所です。大日本史を編纂した所でもあり、常陸太田ロータリークラブのバナーは西山荘の丸窓から見える梅の木をモチーフにデザインしてあります。

2025年7月1日現在、正会員28名です。前年度、常陸太田 Shine 衛星クラブを9名のチャーターメンバーで設立しました。従って総会員数37名です。

当クラブは数々の奉仕プロジェクトを行って参りましたが、中学生ソフトテニス大会は47年目を迎え継続しております。又、米山奨学生も毎年受け入れております。

当クラブは女性会員が6名居り女性の比率が高く、衛星クラブ発足と同時に若手メンバーも増えました。歴史と伝統を踏まえつつ新たな可能性を探りながら70年、80年と時を刻んで参ります。

今年度は成井小太郎会長のリーダーシップのもと、活発で明るく楽しいロータリークラブの運営を目指して参ります。

大子ロータリークラブ

会長 齋藤 靖弘
幹事 福田 智昭

茨城県の北部、豊かな自然に恵まれた大子町に拠点を置く「大子ロータリークラブ」は、地域社会への奉仕を理念に掲げ、多岐にわたる活動を展開しています。1966年の創立以来、半世紀以上にわたり、地域に根差した奉仕活動を継続し、大子町の発展に寄与してきました。

当クラブは、様々な職業を持つ多様な会員で構成されており、それぞれの専門知識や経験を持ち寄り、活発な議論を通じて奉仕活動の企画・実行にあたっています。主な活動としては、地域清掃や緑化活動といった環境保全活動、高齢者施設への慰問や子供たちの健全育成支援などの福祉活動、そして、次世代を担う若者への奨学金支援や国際理解を深めるための国際奉仕活動などがあります。

特に近年では、大子町の観光振興にも力を入れており、地域のイベントへの協力や、特産品のPR活動なども積極的に行っています。また、国内外のロータリークラブとの連携も強化し、より広範な視点での奉仕活動にも取り組んでいます。

奉仕の精神のもと、大子ロータリークラブはこれからも、地域社会のニーズに応え、より良い社会の実現を目指して活動を続けてまいります。地域にお住まいの皆様、そして大子町を訪れる皆様に、私たちの活動が少しでも貢献できるよう、日々精進し、地域に欠かせぬ存在でありたいと思います。

大洗ロータリークラブ

会長 加部東孝浩
幹事 小沼 洋道

1973年の発足から50年を超え、私たち大洗ロータリークラブは、この美しい太平洋に面した町の歴史と共に、確かな歩みを刻んでまいりました。時代の変化に伴い、会員数の減少という寂しさを抱えているのもまた事実です。しかし、半世紀にわたり培われたクラブの精神は、決して揺らぐことはありません。

今ここに集う私たち一人ひとりが、ロータリーの哲学と奉仕の歴史を深く心に刻んだ、まさに「ロータリーの生き字引」のような存在だからです。長きにわたって活動を支えてきた知恵と経験は、クラブにとって何物にも代えがたい財産であり、困難な課題に直面した時も、常に私たちを導く羅針盤となっています。少人数だからこそ、互いの存在を深く尊重し、濃密な時間の中でそれぞれの知識と情熱を結集できるのが、私たちの最大の強みです。

私たちは、この貴重な伝統と絆を大切にしながら、日々の奉仕活動に励んでいます。大洗の象徴である海の清掃活動や、地域の未来を担う子どもたちの育成支援など、一つひとつの活動には、積み重ねてきた確かな歴史と誇りが宿っています。

これからも、長年の伝統はそのまま大切にし、令和の時代にフィットしたクラブを目指し活動してまいります。先達の築いた確固たる基盤の上に、時代の変化を恐れず、新しい奉仕の形を模索し続けることこそ、私たちの使命です。この町の未来がさらに輝くよう、会員一同、力を合わせてまいります。

勝田ロータリークラブ

会長 小橋川 祥
幹事 大津 宣明

茨城県ひたちなか市に所在する勝田ロータリークラブは、1974年の創立以来、地域とともに歩み続け、2024年に創立50周年という大きな節目を迎えました。「超我の奉仕」の理念を胸に、私たちは一人ひとりが自ら考え、行動するクラブとして、継続的かつ多様な奉仕活動に取り組んでおります。

社会奉仕活動としては、障がいのある方々を対象にしたカメラ技術習得のための職業訓練を毎年実施しています。写真撮影や編集技術の学習を通して、自己表現の喜びを得るとともに、将来的な社会参加や就労の可能性を広げる支援を行っています。

また、地域の高齢者施設では健康体操のプログラムを継続的に実施しており、施設に入居されている皆様の健康維持や心身の活性化を図るとともに、笑顔の交流の場ともなっています。医療・介護の現場とも連携を図りながら、地域包括ケアに貢献する活動を行っています。

さらに、50周年記念事業として、市内の公園に桜の木を植樹いたしました。これは記念の年の象徴としてだけでなく、今後も継続的に植樹を行うことで、地域の皆様とともに季節のうつろいを楽しみ、未来にわたってロータリーの精神を根付かせていく願いが込められています。

今後も勝田ロータリークラブは、地域社会の課題に真摯に向き合いながら、奉仕活動を通じて人と人をつなぎ、信頼と絆を育み続けます。次の50年、そしてその先の100年を見据え、未来を担う若い世代との交流や会員の多様化も推進しながら、ロータリーの理念を地域に広げ、世界とつながるクラブとして歩みを進めてまいります。

東海那珂ロータリークラブ

会長 猪股 真純
幹事 鶴田 哲男

東海那珂ロータリークラブは我が国原子力発祥の地、東海村と那珂市を所在地域に、1986年12月に設立されました。2026 - 27年度には創立40周年を迎えます。

特徴的なことは原子力関係に勤務する会員が多いことで、会員32名のうち20%を占めています(6月末現在)。クラブのバナーも原子力に由来しており、放射線の γ (ガンマ)と核分裂の模式図をアレンジして作られました。

例会での卓話も必然的に原子力の話題が多くなりますし、卓話だけにとどまらず、村内に立地する東海第二発電所については実際の工事現場に足を運んで、そびえ立つ防潮堤など安全対策工事の状況を確認しました。

話題を会員増強に転じます。我がクラブの採用源になっているのがSMOUKS(スモウクス)会です。有志によるゴルフ愛好会で、発足時メンバーの頭文字を並べてSMOUKSとしました。発足以来18年、毎月1回、那珂市・常陸大宮市にまたがる静ヒルズカントリークラブでコンペを行っています。

SMOUKS会のメンバー23名中、我がクラブの会員は11名。コンペの際にはプレイの傍ら、巧みな話法とみなぎる情熱でクラブへの勧誘を行います。昨年度もこの会から、2名の入会がありました。

和気あいあいとした我がクラブですが、最大の課題は女性会員が一人もいないことです。今年こそは！皆さまに堂々と報告できるよう、熱いハートで頑張ります。

ひたちなかロータリークラブ

会長 浅利 英道
幹事 安 幹雄

いよいよ新年度、私たちひたちなかロータリークラブは総勢23名でスタートを切りました。男性会員21名、女性会員2名で構成されており、平均年齢は62歳となっております。昨年度は残念ながら1名の脱会があったものの、新たに3名の仲間が加わりました。そのなかでも30代の新会員が新たな仲間として加わったことが、今まで以上に元気で明るいクラブへと活性化の起爆剤として、またこれを機に若く志の高い仲間が増えることへのきっかけとなることをおおいに期待しております。もともと私どもは創立メンバー等ロータリー経験の豊富なメンバーと、新たに加入した経験の浅いメンバーとの交流の垣根が低く、例会や懇親会など会員の笑顔に包まれた和やかな雰囲気が特徴のクラブです。今後もあらたな会員を積極的にお誘いし、更なるロータリー活動の活性化を目指してまいります。

昨年度当クラブはおかげさまで創立30周年を迎えることができました。一重にロータリーの皆様のご支援とご指導の賜物とこの場を借りて厚く御礼申し上げます。式典には多数のご来賓に出席いただき、お祝いと励ましの言葉を頂戴しました。気持ちも新たに、引き続き我がクラブは、信頼するロータリー仲間との友情と交流を通じて「奉仕の理想」の更なる高みを目指してまいります。

公式訪問

高萩ロータリークラブ



公式訪問

笠間ロータリークラブ





ガバナー 回顧録

国際ロータリー第2820地区
地区諮問委員

永井 靖彦 (水戸東RC)

思い起こせば、今から20年前、2004-2005年度に地区ガバナーに就任した時、それは国際ロータリーが創立100周年を迎えた年度でありました。その時のRIテーマ「ロータリーを祝おう」のもと、ロータリー運動が世界で展開されました。この記念すべき年度の地区大会にはRI理事 田中作次様ご夫妻をRI会長は派遣くださいました。田中作次様は後に、日本人で3人目になる国際ロータリー会長に選出されました。又、この地区大会では特別講演に、一般社団法人茶道裏千家第15代前家元で、文化勲章授与者、そして元RI理事 千玄室大宗匠に、心に残る講話を頂戴致しました。

2004-2005年度は世界のロータリアンにとりまして格別なるお祝いの年度であり、全てのロータリアンが神の祝福を受ける時でもありました。更にこの年度はRIの国際大会が26年ぶりに日本で、そして大阪で初めて、大阪国際大会が開催されました。この大会の登録者は世界112ヶ国から45,595人と、これまで最高だった1978年の東京国際大会の記録を大きく塗り替えたのであります。

ここで、私は思うのであります。何故、ロータリーが100年もの長きに亘り続いたのか。ロータリー100年の道程は寄り道ばかりして、なかなか理想の目的地に到達しないようである。ロータリーの物指し、あるいは羅針盤となるものは何なのか。それは「ロータリーの精神」ではないでしょうか。そのロータリーの精神的原点は「欲望の自己制御」であり、ロータリーの目的は「職業人としての人間づくり」ではないでしょうか。

世界一の大河でさえ、その源泉はひそやかであり、わずかな水の流れが野山を下るうちに触れるものすべてに新たな生命を与える。そのうちに小川がいくつも合流して大河になる。100年前にポールP・ハリスという一人の弁護士のひらめきによって、ロータリーと呼ばれる河が生まれた。河の流れが時には向きを変えるように、ロータリーも方向を変え、そこに「奉仕」の喜びを見出した。これがロータリーの一大転機となった。そしてロータリーは史上初の「奉仕クラブ」として知られるようになった。世界で100年に到達した団体は他にはほとんどありません。このことは今までロータリアンが正しい行動を実践していることを示しているからです。



アメリカ・エバンストン 国際ロータリー世界本部前の
ポール・ハリス像と握手する永井ガバナー



国際大会帰国報告

国際ロータリー第2820地区
2025-2026年度ガバナー

瀬戸 隆海（水海道RC）

今年のロータリー世界大会は、6月21日から25日までカナダのカルガリーで開催されました。開会前日まで悪天候で、正直言って日本の冬のような気候でした。私自身、数日前から現地に行っている友人のFacebookによれば、最低気温が5度、最高気温も15度にもならないという事で、フリースやらダウンジャケットを忍ばせて日本を発ちました。現地までは、11時間のフライト。到着すると、機内にも聞こえる強烈な雨と風。

意外にスムーズな入国手続き、終わってホテルに直行。さっきまでの雨が上がり、ホテルチェックインの後に会場を下見、登録を行いました。大会会場はBMOセンター。会場内の友愛の家、登録キットを見学し、夕食会場に移動しました。街の中にあるステーキハウス、さすがに大勢のロータリアンの人で一杯でした。あれっ、同期のガバナーたちが座っている！結構有名なお店のようでした。うん、添乗員からの絶賛のお勧めのようで、カルガリー牛肉はカナダのブランド牛ということもあり久しぶりに美味しいお肉をいただきました。一部の方は、ホテルの近くにあるカジノに想いを馳せ、ずっとそわそわ気味でした。

いよいよ大会当日です。大会の開会式は二部制になっており、登録順により午前の部と午後の部。では、午前と午後と何が違うのと言え、その国の元首とか市長とかメインゲストが来られてスピーチがあります。午後の部は、午前中のスピーチが録画されたものを放映する。大きな違いはそのようなことです。しかし、今回は元首も市長も来られてなくて、とても残念でした。多分、直前まで七か国首脳会議が行われていたことも影響していたのでしょう。

ところで、数日前に新しいRI会長エレクトが決まり、日本人朝食会会場で一緒に写真を撮れることになりました。急遽、日本人朝食会の登録を行い会場に駆けつけました。朝7時前にも拘わらず、会場のホールは参加者で一杯。やはり、新しく決まったフランチェスコ・アレッツォ会長エレクトに会える事を楽しみに来ているのでしょう。彼の最初の第一声は、「今までの会長は2年をかけて準備してきたのでしょうか、私は僅か2週間で準備をしなければいけない。」と、笑いと思嘆と入り混じった空気感に変わりました。とても気さくな方だと思いました。

今回の朝食会と今までの朝食会との違うところは、RI会長、RI会長エレクトが朝食会の間、ほぼ同席してくれたことでした。財団資金管理委員長は、資金集めの為、あちこちにあいさつ回りに出かけるため、直ぐに退席されるのが常です。それに比べて、会長、会長エレクトが長い時間同席していただけたのは、水野理事の力ではないかと感じました。この間、今回最大ミッションであるフランチェスコ会長エレクトとの写真撮影も終了できました。

午前中の大会開会式に出席しましたが、先ほども申し上げたようにカナダ首相もカルガリー市長の挨拶もなく、式典最後のアトラクションも予想以上に質素で、登録料が高い割には今一の感想でした。しかし、開会式中アーチック会長は次のように語りました。「ロデオの服を着ているからといって、私たちが真剣でないわけではありません。この派手な装いの奥には、“目的意識”が

あります。いま世界は分断されていると感じられるかもしれませんが。でもロータリーは、違いをなくすのではなく、その違いを祝うために世界中の人びとをつなぎます。これこそ、ロータリーが平和を広げる方法です。平和とは、争いがない状態だけを意味するのではなく、理解しあう心がある世界を意味するからです」とスピーチされていました。更に、ロータリーとゲイツ財団が、ポリオ根絶に向けて数百万ドル規模のさらなる支援を行うことを発表しました。

翌日は、2840 地区（群馬県）と合同のガバナーナイトを、カルガリー空港に隣接しているマリオットホテルで行いました。43 名の出席者で、地区を超えての懇親会。とても盛り上がりました。

このように、昨今の世界の分断に対して警鐘を唱える形でスタートした世界大会も、無事 25 日に閉幕し、来年台北で行われる世界大会での再会を祈って、帰国の途に就いたわけでありました。

是非とも、多くの会員が 2026 年 6 月 13 日～17 日の台湾で行われる世界大会にご登録をお願い申し上げます。



2028－2029年度地区ガバナー候補者推薦のお願い (ガバナーノミニー・デジグネート)

このことにつきましては、2012年5月26日の指名委員会・ガバナー補佐合同会議及び2012年8月18日の諮問委員会において、今後の第2820地区ガバナーノミニーの選出が、ガバナー及び輩出クラブの負担軽減を含めスムーズに行われるよう、現行制度を以下のように改革する案が協議され採択されております。

協議事項 1. 第2820地区の8つの分区を以下の5つのブロックにする。

- 第1ブロック 第1分区、第2分区
- 第2ブロック 第3分区
- 第3ブロック 第4分区、第5分区
- 第4ブロック 第6分区
- 第5ブロック 第7分区、第8分区

協議事項 2. 省略

協議事項 3. ガバナーノミニーの選出ブロック順は以下となる。

- 2027-2028 第4ブロック
- 2028-2029 第2ブロック
- 2029-2030 第1ブロック
- 2030-2031 第5ブロック
- 2031-2032 第3ブロック

2028-2029年度ガバナー(ガバナーノミニー・デジグネート)については、協議事項3により、第2ブロックより選出されることとなりますので、第2ブロック内クラブより推薦いただき、2025年12月10日までに、ガバナー事務所にご連絡ください。

ガバナー指名委員長 池田正純

✳️ 新入会員紹介 ✳️

Enjoy Rotary

(敬称略)



ひたちなか RC
牛木 直利

■入会日
2025年3月18日

■職業分類
自動車販売



つくば学園 RC
中川 剛

■入会日
2025年5月29日

■職業分類
リサイクル業



水戸さくら RC
青木 良憲

■入会日
2025年3月10日

■職業分類
ホテル業



水戸東 RC
茂手木 克好

■入会日
2025年6月5日

■職業分類
民事弁護士



水戸東 RC
滑川 久美雄

■入会日
2025年6月19日

■職業分類
神道



北茨城 RC
成田 一将

■入会日
2025年7月2日

■職業分類
飲食業



日立港 RC
萩谷 康弘

■入会日
2025年7月3日

■職業分類
情報サービス



つくばシティ RC
木村 英幸

■入会日
2025年7月16日

■職業分類
税理士



古河中央 RC
菅井 礼子

■入会日
2025年7月9日

■職業分類
製造業



古河中央 RC
関 公米子

■入会日
2025年7月9日

■職業分類
不動産賃貸業



東海那珂 RC
原嶋 俊彦

■入会日
2025年7月2日

■職業分類
原子燃料材料等
研究開発



東海那珂 RC
鹿志村 雅男

■入会日
2025年7月2日

■職業分類
社会福祉



東海那珂 RC
飯塚 長

■入会日
2025年7月2日

■職業分類
人材派遣業

よろしくお願ひします。

訃報

謹んでお悔やみ申し上げます



古河RC
岩崎 清

(享年 102 歳)

1922(大正11)年10月26日生
2025(令和7)年 6月29日ご逝去
1966(昭和41)年8月30日入会

■ロータリー歴

58年10ヶ月

■寄付歴

ポールハリスフェロー PHF-8

ポールハリスソサエティ PHS

ベネファクター

米山功労者 Y10

メジャードナー



9月ガバナー公式訪問・研究会日程表

1	月	岩井	12	金	玉造	23	火	
2	火	日立南	13	土	つくばサンライズ	24	水	常陸太田
3	水	結城	14	日	クラブラーニング FT 研修会	25	木	鹿島中央
4	木	つくば学園	15	月		26	金	
5	金	鹿島臨海	16	火	しもだて紫水	27	土	
6	土		17	水	日立中央	28	日	
7	日		18	木	取手	29	月	
8	月		19	金	古河	30	火	竜ヶ崎
9	火	鉾田	20	土				
10	水	日立北	21	日				
11	木	水戸好文	22	月				

◆お詫びと訂正

7月号P18「第5分区 ガバナー補佐・クラブ会長・幹事紹介」で、各クラブ会長幹事顔写真の3段目左「しもだてRC」と表記しましたが、正しくは「しもだて紫水RC」の誤りです。お詫びして訂正いたします。

月信 9月号編集後記

月信編集の担当させていただいて、やっと3号分まで発刊。ようやく作業のリズムがわかり始めたところ。

会員の皆様に見やすい紙面をと思いスタートしましたが、なれない編集の作業に、今夏の気温以上に汗をかいております。

もう少しすると地区大会を迎えます。ぜひ多くの会員の皆様をお迎えしようと、クラブのメンバー全員で力を合わせ頑張っております。

ただいま8月1日、毎日暑い日が続きます。この号が皆様の手元に届く頃には少し過ぎしやすくなっていることを願いますが、会員の皆様にはくれぐれもご自愛くださいますようお願いいたします。

ガバナー月信委員会 委員 鈴木勝久